



新宿区の地場産業と文化財保護制度



新宿区は西口の高層ビル街と東口の繁華街のイメージが強いですが、緑豊かな住宅街や江戸情緒の残る路地など、さまざまな顔を持っています。今回は職人技が光る地場産業の印刷・製本関連業と染色業、そして区の歴史を継承する文化財を「おたから」として紹介します。

◆「印刷・製本関連業」と「染色業」が連携し、街の活性化を図る

印刷・製本関連会社が集い
多くの事業所が新宿に開設

機械化できない手仕事に
新たな価値を見出す

ブームによって、御朱印帳に代表される和綴製本の注文も多くなりまし
た。和綴製本は、新宿区主催のイベ

地域の事業所が連携し
関連業種全体でものづくり

新宿区の印刷・製本関連業は、明治19（1886）年に秀英舎（現在の大日本印刷）が中央区から市谷加賀町に移ってきたことに伴い、その周辺に出版、印刷、製本に関連する事業所が集まり、文京区と並び東京都を代表する集積地として発展しました。ピーク時の昭和50

現在、地元の印刷・製本関連会社が手がける製品の中で注目を集めているのが、手加工を中心とした製品です。たとえば鑄造活字を使用した活版印刷。活字にこだわった名刺の作成などに使われます。また、昨今の御朱印

ントでも体験コーナーがあり大人気です。新宿区では、このような優れた技術者を対象とした「新宿ものづくりマスター認定制度」を実施し、ものづくり産業の振興を図っています。

新宿区の印刷・製本関連業は、紙への印刷と製本だけにとどまらない多様な会社が協力し合いながら事業を展開し、新しい製品づくりに挑戦しています。各社が自社の得意分野だけでなく、関連他社がどのような技術を持っているかを把握するためのシステムを導入し、関連業種全体として仕事を受けられる体制づくりもスタートしました。各社の技術内容の見える化により、互いに足りない部分を補い合いながらものづくりを続け、新宿区の地場産業としての印刷・製本関連業全体を盛り上げていくことを目指しています。

（1975）年には、区内に13384事業所がありました。その後、機械化が進み、多くの工場が郊外へ移転したために減少。工業統計調査によると、平成17（2005）年には712事業所、令和2（2020）年には154事業所となりました。



活版印刷に使用する活字



手作業の繊細さが魅せる和綴製本



大新宿区まつり
ふれあいフェスタの和綴製本体験

大新宿区まつりふれあいフェスタの和綴製本体験

神田川の清流を求めて 染めの職人が集まった

大正中期、神田や浅草の染色業者が神田川の清流を求めて移転してきたことが、新宿区の染色業の始まりです。昭和に入り神田川と妙正寺川をはさんで工房が増え、昭和30年代までは反物を川で洗う様子も見られました。反物が着物に仕上がるまでには図案・下絵、糸目糊置き、引染、湯のしなどの12工程があります。それぞれの工程を専門の工房が担い、職人から職人へと技が受け継がれます。区内では現在約150人が染色業に携わり、印刷・製本関連業と同様、多くの新宿ものづくりマイスター認定者がいます。

新宿区の代表的な染め 東京手描友禅と東京染小紋

東京手描友禅は京都、加賀と並ぶ三大友禅のひとつで、友禅染めの染師や絵師が京都から江戸に移り住み、独自の発展を遂げたといわれています。分業制の京都や加賀の友禅染めとは異なり、一人の職人が全工程を担うことが特徴で、職人の個性が作品の魅力となっています。

東京染小紋（江戸小紋）は武士の袴の型染めから生まれたもので、無地と見紛うほどの細かな文様が特徴。どちらも着物だけにとどまらず、洋服やスカーフ、ネクタイなどの柄としても活用されています。共に日本の伝統工芸に認定されており、新宿区内にも伝統工芸士がいます。

数々のイベントを通じて 「染めの街」をアピール

新宿区の染色業の団体では、染め物の魅力を多くの人に広めるため、毎年数々のイベントを開催しています。7月下旬頃には神田川の親水テラスを会場に、川で染め物の水洗いをする工程を含めた染色体験「神田川 水べの染め体験」、10月下旬頃には落合・高田馬場・早稲田にある工房の見学と染色体験「お江戸新宿・紺屋めぐり」、2月下旬には色とりどりの反物を妙正寺川の上に架け渡したり、中井駅周辺の商店街の軒先に染色作家の暖簾を飾って街ごとギャラリーにする「染の小道」（主催・染の小道実行委員会）などで、街全体を盛り上げます。



神田川 水べの染め体験イベントでの水元の再現



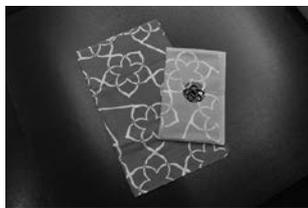
150枚近くの反物が妙正寺川を彩る「川のギャラリー」（「染の小道」より）

2つの地場産業の共同ブランド 「Azalée（アザリー）」

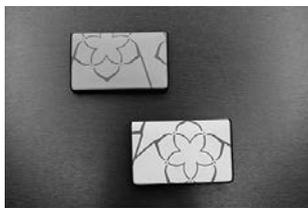
印刷・製本関連業と染色業が共同で取り組む街の活性化プロジェクト。新宿区の花に制定されているツツジ（Azalée）をモチーフに、染色の小紋柄を連想させるドットをアクセントに添えた「アザリーデザイン」を活用した商品開発を行っています。
<https://azalee-shinjuku.com>



コースターとメモ帳



手ぬぐい



名刺入れ



浴衣

◆地域の貴重な文化財を保護・保存・活用する、新宿区の文化財保護制度

3つのカテゴリーを持つ文化財保護制度

新宿区では、貴重な文化財を保存し未来に継承するため、昭和58（1983）年に文化財保護条例を施行し、区内の文化財の保護・保存・活用に努めています。

文化財が決定するまでの流れは、新宿区の学芸員や文化財協力員（区民ボランティア）が資源調査を行い、区内の文化財の把握をします。続いて文化財調査員（専門家）や学芸員等が調査を行います。その後、指定・登録文化財は、取り扱いを文化財保護審議会が審議し、新宿区教育委員会に答申し、教育委員会が決定します。地域文化財は、同審議会の意見を聴取した後、新宿区教育長が決定します。

新宿区の文化財には文化財保護条例が施行された年に創設した指定文化財と登録文化財、平成23（2011）年に創設した地域文化財の3つがあり、それぞれ意味づけが異なります。これらの文化財の中から特に新宿区の歴史と結びついたものを紹介します。

新宿区指定文化財 （現在130件）

- 区内の文化財で特に重要なもの
- ・現状のまま適正に保存・管理
- ・現状変更には区の承認が必要
- ・区が文化財説明板を設置
- ・文化財・観光マップ等に掲載
- ・文化財保護奨励金を交付（毎年1万円、建造物・無形・無形民俗は3万円）
- ・文化財保護補助金を交付（補修等の際に総額の50%）

新宿区登録文化財 （現在54件）

- 区内の文化財で保存の必要があるもの
- ・現状のまま適正に保存・管理
- ・現状変更の際には区に届出が必要
- ・区が文化財説明板を設置
- ・文化財・観光マップ等に掲載
- ・文化財保護補助金を交付（補修等の際に総額の50%）

新宿区地域文化財 （現在47件）

- 地域の歴史を継承するもの
- ・現状のまま適正に保存・管理
- ・現状変更の際は区に連絡
- ・認定プレートを交付
- ・文化財・観光マップ等に掲載

「内藤新宿の閻魔大王」

新宿区指定文化財 太宗寺の閻魔像と奪衣婆像

新宿区の区名は甲州街道の宿場のひとつ、内藤新宿に由来します。甲州街道の最初の宿場は高井戸（現在の杉並区）でしたが、日本橋から遠かったため、江戸の町人が幕府に願い出て、譜代大名内藤家の江戸屋敷（現在の新宿御苑）の一部などを返上させ、新しい宿場が開設されました。

太宗寺は内藤新宿の中心にある寺院で、内藤家の菩提寺となっています。文化11（1814）年に安置された閻魔像は「内藤新宿のお閻魔さん」として江戸時代から信仰を集めた閻魔大王の坐像で、当時の錦絵にも描かれたほど人気がありました。閻魔像の左側に安置されている奪衣婆像は、三途の川の渡りで亡者の衣類を剥ぐことからこう呼ばれています。太宗寺境内は「新宿ミニ博物館」として整備され、境内のほかの文化財も見学できるようになっています。拝観は日中のみ。無休。拝観無料。

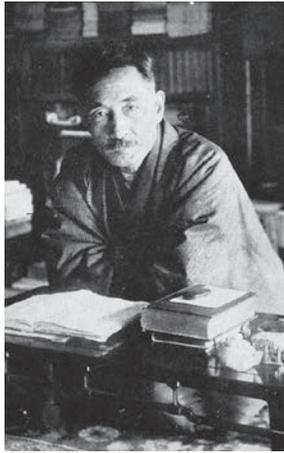


太宗寺閻魔堂（新宿区新宿 2-9-2）



奪衣婆像（左）と閻魔像（右）

「文豪夏目漱石ゆかりの地」
新宿区指定文化財
夏目漱石誕生の地



夏目漱石誕生の地
(新宿区喜久井町1)

明治の文豪夏目漱石は、新宿に生まれ、新宿で代表作の数々を書き、新宿で亡くなった、新宿区にゆかりの深い作家です。誕生の地は、慶応3(1867)年1月5日(新暦の2月9日)に漱石が生まれた家の跡地です。夏目家は牛込馬場下周辺をまとめる名主の家柄で、漱石は5男3女の末っ子でした。1歳で塩原家の養子となりましたが、9歳のときに塩原姓のまま実家に戻っています。この地に建つ記念碑は漱石生誕100年を記念して新宿区が建てたものです。

新宿区指定文化財
夏目漱石終焉の地
(新宿区立漱石山房記念館
・漱石公園)



漱石山房記念館(新宿区早稲田南町7)
開館 10～18時(入館は17時30分まで)、月曜休館(休日の場合は直後の平日)、年末年始休、展示替による臨時休館、通常展一般観覧料 300円、小中学生 100円(特別展開催時は別途定めあり)

夏目漱石が明治40(1907)年9月から大正5(1916)年12月9日に亡くなるまで住んでいた場所です。「漱石山房」と呼ばれていました。ベランダ式回廊を持つ和洋折衷の珍しい建物でしたが、空襲で焼失。新宿区はこの地に「漱石山房記念館」を整備し、漱石山房の一部を再現するとともに、漱石に関する資料の収集・保管を行っています。館内には漱石作品や関連図書約3500冊をそろえた図書室(閲覧のみ)や漱石にちなんだメニューがあるブックカフェなどがあります。

「幕府鉄砲隊出陣の儀」
新宿区登録文化財
鉄砲組百人隊行列



鉄砲組百人隊行列。三隊を編成し、具足をまとい火縄銃を担って町内を回った後、火薬を用いて空砲を射つ演武

徳川幕府に仕え江戸城の警備等にあたった鉄砲組百人隊の出陣の儀を昭和36(1961)年に再現した行事で、鉄砲組同心たちが信仰した皆中稱荷神かみちゅういなり社の例大祭で、隔年で公開されます。鉄砲組の行列は百人町周辺を練り歩き、出発地点を含めた8カ所程度で火縄銃を用いた試射を行います。なお、一帯の町名「百人町」は、鉄砲組百人隊の屋敷があつたことに由来します。

「江戸・明治の風情を残す寄席」
新宿区地域文化財
末広亭



末広亭(新宿区新宿 3-6-12)

末広亭は、新宿区地域文化財の第1号。東京に4席残る落語定席のひとつで、現在も落語協会と落語芸術協会が10日ずつ交代で興行を続けています。客席は1階と2階があり、計313席。東京の寄席としては唯一の木造建築で、昭和21(1946)年の建築ですが、1階に棧敷席があるなど江戸・明治時代の寄席の風情が色濃く残っています。

新宿区の「おたから」を検索できる
新宿文化観光資源案内サイト
「温故知しん!じゆく散歩」
をぜひご覧ください。